

**This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-178011

(43)Date of publication of application : 24.06.1994

(51)Int.Cl.

H04M 11/00

H04L 25/02

H04N 1/00

(21)Application number : 04-349801

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 02.12.1992

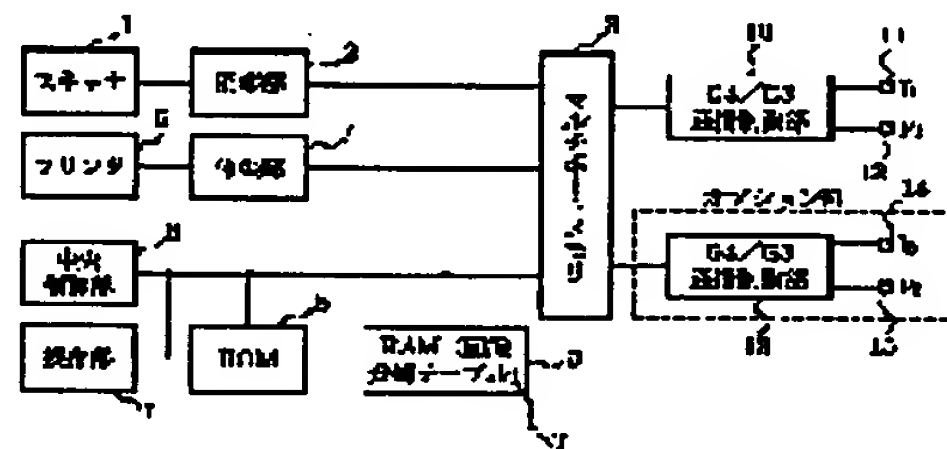
(72)Inventor : KAGAMI NAOTO

## (54) FACSIMILE EQUIPMENT

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To provide a multiport type facsimile equipment which can perform the facsimile communication with a simple operation.

**CONSTITUTION:** For instance, a fact that the I1 and P1 ports are connected to an outside line and an extension respectively is set and registered in a circuit register table T. If the outside line is selected by a touch operation of a call selection button, a central control part 6 automatically selects the I1 port connected to the outside line and performs a calling operation via the I1 port in a G4 mode (I1 (G4)). If it is decided that the opposite party is identical with a G3 facsimile based on the communication carried out in the G4 mode, the part 6 is fallen back to a G3 mode and performs again a calling operation via the I1 port (I1 (G3)). If an operator selects an extension, the P1 port connected to the extension is automatically selected. Then the part 6 performs a calling operation in a G3 mode (P1 (G3)) via the P1 port.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.06.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 14.05.2002

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-178011

(43)公開日 平成6年(1994)6月24日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
H 0 4 M 11/00	3 0 3	8627-5K		
H 0 4 L 25/02		J 8226-5K		
H 0 4 N 1/00	1 0 4 B	7046-5C		

審査請求 未請求 請求項の数6(全 9 頁)十

(21)出願番号 特願平4-349801

(22)出願日 平成4年(1992)12月2日

(71)出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 加々美 直人

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ

ノン株式会社内

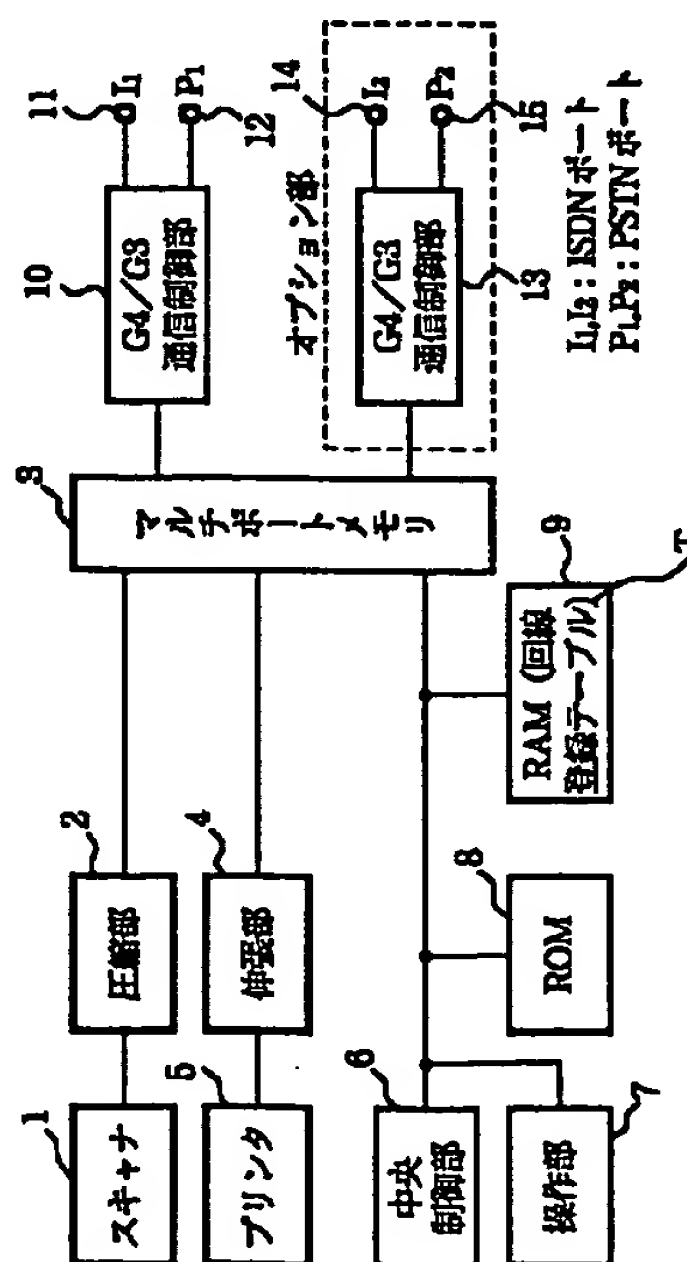
(74)代理人 弁理士 渡部 敏彦

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 簡単な操作でファクシミリ通信を行い得るマルチポートタイプのファクシミリ装置を提供する。

【構成】 例えば、11ポートが外線に、P1ポートが内線に接続されている旨が回線登録テーブルTに設定登録されている状態で、呼選択部のタッチ操作により外線が選択されたとすると、中央制御部6は、外線に接続された11ポートを自動的に選択して、この11ポートを介して、まずG4モード[11(G4)]での発呼を行う。このG4モード[11(G4)]での通信の結果、相手側がG3ファクシミリであることが判明すると、G3モードにフォールバックし、11ポートを介して再発呼を行う[11(G3)]。また、オペレータが内線を選択した場合には、内線に接続されたP1ポートを自動的に選択して、このP1ポートを介してG3モード[P1(G3)]により発呼を行う。



**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** 複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、前記複数の通信ポートの種別情報として、少なくとも各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるかを登録する登録手段と、少なくとも内線、外線のいずれの回線を介して発呼するかを呼毎に指定する指定手段と、

少なくとも前記指定手段により内線、外線のいずれかが指定された際、少なくとも前記指定手段により指定された内線、または外線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択して発呼する通信制御手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

**【請求項2】** 前記登録手段は、前記複数の通信ポートの種別情報として、各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるか、及びISDN網、PSTN網のいずれであるかを登録し、前記通信制御手段は、前記指定手段により指定された内線、または外線に対応する通信ポートがISDN網、PSTN網のいずれに接続されているかを前記登録手段に基づいて判別し、ISDN網に接続されている場合には、指定された内線、または外線に対応する通信ポートを介してG4モードで発呼し、その発呼により発呼先がG3ファクシミリ装置であることが判明したときはG3モードにフォールバックし、PSTN網に接続されている場合には、指定された内線、または外線に対応する通信ポートを介してG3モードで発呼することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

**【請求項3】** 前記登録手段は、前記複数の通信ポートの種別情報として、各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるか、及びISDN網、PSTN網のいずれであるかを登録し、前記通信制御手段は、前記指定手段により選択された内線、または外線に対応する通信ポートのグループにISDN網に接続されているものが含まれていることが前記登録手段に登録されている場合には、ISDN網に接続されている通信ポートを優先的に選択してG4モードで発呼することを特徴とする請求項2記載のファクシミリ装置。

**【請求項4】** 前記登録手段は、前記複数の通信ポートの種別情報として、各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるかを登録すると共に、着信専用であるか否かを登録し、前記通信制御手段は、前記指定手段により選択された内線、または外線に対応する通信ポートが着信専用であることが前記登録手段に登録されている場合には、当該通信ポートを介して発呼することを禁止することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

**【請求項5】** 前記登録手段は、前記複数の通信ポートの種別情報として、各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるか、及び専用回線であるか否かを登録し、前記指定手段は、内線、外線、専用

回線のいずれの回線を介して発呼するかを呼毎に指定し、前記通信制御手段は、前記指定手段により専用回線が選択された場合は自動ダイヤルにより発呼することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

**【請求項6】** 前記指定手段は、タッチ操作により内線、外線の切替え表示を行う液晶タッチパネルにより構成されたことを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、または請求項5記載のファクシミリ装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【産業上の利用分野】** 本発明はファクシミリ装置に関し、特にマルチポートファクシミリ装置において、簡単な操作でファクシミリ通信を行うのに好適なファクシミリ装置に関する。

**【0002】**

**【従来の技術】** ファクシミリ装置は、通信手段として広く普及しており、ファクシミリ通信を行う頻度の高い企業では、一つのファクシミリ装置に複数の通信ポートを備えたマルチポートファクシミリ装置が使用されている。このマルチポートファクシミリ装置では、複数の通信ポートの幾つかを、ISDN網(Integrated Service Digital Network: サービス統合ディジタル網)や、PSTN網(Public Switched Telephone Network: 公衆電話交換網)等の公衆網を介して外線に接続し、残りの通信ポートを企業内ネットワークなどの内線に接続して使用するのが一般的である。この場合、通信ポートの指定の方法としては、各通信ポートに「ポート1」「ポート2」などの固有名称を付し、オペレータが発呼操作時に、送信先によって通信ポートを指定する方法が取られている。

**【0003】**

**【発明が解決しようとする課題】** しかし、ファクシミリ装置のオペレータは、ファクシミリ通信についての知識を有しているとは限らず、どの通信ポートを使用すればよいかは意識せずに、単に、送信先のファクシミリ装置が内線、外線のいずれに接続されているかのみを意識している場合が多い。したがって、上記従来の通信ポートの指定の方法は、ファクシミリ通信についての知識のないオペレータには、判りにくく操作に手間取るという問題がある。

**【0004】** 本発明は、このような事情の下になされたものであり、その目的は、簡単な操作でファクシミリ通信を行い得るマルチポートタイプのファクシミリ装置を提供することにある。

**【0005】**

**【課題を解決するための手段】** 上記目的を達成するため、本発明は、複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、前記複数の通信ポートの種別情報とし

て、少なくとも各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるかを登録する登録手段と、少なくとも内線、外線のいずれの回線を介して発呼するかを呼毎に指定する指定手段と、少なくとも前記指定手段により内線、外線のいずれかが指定された際、少なくとも前記指定手段により指定された内線、または外線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択して発呼する通信制御手段とを備えている。

#### 【0006】

【作用】今、Iポートと、Pポートとを有するファクシミリ装置において、Iポートが外線に接続され、Pポートが内線に接続されており、登録手段には、この回線接続状態が登録（記憶）されているものとする。

【0007】この場合、指定手段により、内線が指定されたこととすると、通信制御手段は、前記登録手段を検索することにより、指定された内線に接続された通信ポートがPポートであることを認識し、自動的にPポートを選択してPポートを介して発呼する。また、指定手段により、外線が指定されたこととすると、通信制御手段は、前記登録手段を検索することにより、指定された外線に接続された通信ポートがIポートであることを認識し、自動的にIポートを選択してIポートを介して発呼する。

#### 【0008】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図1～図9を参照して説明する。

【0009】図1は、本発明の一実施例によるファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図であり、原稿を読み取るスキャナ1が、読み取った画像データをMH、MR、MMRなどに符号化して圧縮する圧縮部2を介してマルチポートメモリ3に接続してあり、該マルチポートメモリ3は、前記符号化圧縮されたデータを伸張して、原画像データ復元する伸張部4に接続してあり、伸張部4には原画像を印字するプリンタ部5が接続してある。

【0010】一方、装置全体の制御を司る中央制御部6が、バスBを介してマルチポートメモリ3に接続してあり、該バスBには、装置の操作を行う操作部7、装置の制御プログラムが格納されたROM8及び制御情報や回線登録テーブルTが格納されたRAM9が接続してある。

【0011】また、マルチポートメモリ3には、中央制御部6の制御の下に、G3通信制御及びG4通信制御と回線とのインタフェースを行う通信制御部10が接続してあり、この通信制御部10には、ISDN I/f（インタフェース）を備えた通信ポート11と、PSTN I/fを備えた通信ポート12とが設けてある。さらに、マルチポートメモリ3には、通信制御部10と同一構成の通信制御部13が、オプションとして設置可能にしてある。

【0012】操作部7には、図2に示すように、ファクシミリ通信の状態を表示する液晶表示面70が設けてあ

り、この液晶表示面70の下部に呼選択部71を含む各種の制御部が形成され、液晶表示部70の側部に各種の動作部が設けてある。前記各種の制御部は、液晶タッチパネルにより構成され、このうちの呼選択部71は、タッチする毎に「内線」、「外線」、「専用線」の表示がサイクリックに切替えられるように構成されている。

【0013】この操作部7での各種制御部のタッチ操作及び各種の動作部の操作によって、中央制御部6は、マルチポートメモリ3を介して、通信制御部10、13のファクシミリ通信動作の制御をし、圧縮部2からの送信画像データが、マルチポートメモリ3を介して通信制御部10、13に転送される。また、回線からの受信画像は、通信制御部10、13を介して受信され、マルチポートメモリ3に一時格納され、その後伸張部4に転送されプリンタ5で印字される。

【0014】図3は、本ファクシミリ装置の設置時に、前記RAM9内の回線登録テーブルTに設定登録されるべき設定登録項目を示した図である。この設定登録項目は、大別するとボード種別とポート種別とに分けられる。ボード種別は、通信制御部10、13が搭載されたボードを区別するものであり、具体的には、(1)ボード未実装、(2)ISDN I/f×1、PSTN I/f×1、(3)X I/f×1、PSTN I/f×1のいずれかの項目が設定登録される。ここで、ISDN I/fとは、公衆網であるISDN網、高速ディジタルI I/f専用線などのI/F（インタフェース）を具備していることを示し、X I/fとは、CCITTのXシリーズ勧告のX21、X21bis規定によるインタフェースを具備していることを示している。

【0015】また、ポート種別の設定登録項目は、内外線種別、運用種別及び回線種別の3種類に分けられ、内外線種別の設定登録項目としては、(1)未接続、

(2)外線、(3)内線、(4)専用線があり、運用種別の設定登録項目としては、(1)通常、(2)着信専用、(3)送信専用があり、着信専用設定された通信ポートは、発信動作を行わない。さらに、回線種別の設定登録項目としては、(1)ISDN、(2)PSTN、(3)X I/f、(4)アナログPBX（Private branch exchange：構内交換機）、(5)I I/f専用線がある。

【0016】次に、実際の回線接続例に基づいて、ボード種別及びポート種別をどのように設定登録し、この設定登録状態で装置がどのようにファクシミリ通信処理を行うかを説明する。

【0017】まず、2ポートタイプの場合について説明する。例えば、図4に示したように、I1ポートを外線のISDN網に、P1ポートを内線のアナログPBXに接続したとする。この接続例では、回線登録テーブルTには、図5に示したような項目内容を設定登録する。すなわち、ボード種別としては、通信制御部10が搭載さ



れたボードについては、(1)「ISDN I/f×1、PSTN I/f×1」を設定登録し、通信制御部13が搭載されたボードについては、(2)「未実装」を設定登録する。また、ポート種別については、内外線種別としては、I1ポートについて「外線」、P1ポートについて「内線」を設定登録し、運用種別としては、I1ポート、P1ポート共に「通常」を、回線種別としては、I1ポートについて「ISDN」、P1ポートについて「PBX」を設定登録する。

【0018】このような設定登録がなされた状態で、オペレータが図2の呼選択部71のタッチ操作により内線/外線、或いは専用線の選択を行い、相手ファクシミリ番号をダイヤルすると、中央制御部6は、回線登録テーブルT内の登録内容を参照して、図6に示したように、通信ポートの選択及びG3或いはG4の通信モードの選択を自動的に行う。なお、図6は、2ポートの場合の全ての回線接続形態に対応する通信ポートの選択及びG3或いはG4の通信モードの選択処理を示しており、2重線で囲んだ部分が、図4の接続形態に対応している。

【0019】すなわち、図4の接続形態では、オペレータが外線を選択すると、I1ポートを介してG4モード[I1(G4)]での発呼が行われる。このG4モード[I1(G4)]での通信の結果、相手側がG3ファクシミリであることが判明すると、G3モードにフォールバックし、I1ポートを介して再発呼を行う[→I1(G3)]。また、オペレータが内線を選択した場合には、P1ポートを介してG3モード[P1(G3)]により発呼が行われる。

【0020】なお、図6に示したように、接続形態が「I1外、P1外」で、両ポート共に外線に接続されている場合、或いは「I1内、P1内」で、両ポート共に内線に接続されている場合には、呼選択部71には外線、内線のいずれも表示されず、呼選択部71がタッチ操作されなくても自動的に外線或いは内線に発呼されるようになっている。また、接続形態が例えば「I1専、P1外」のように専用線が接続してある場合は、その専用線に接続された相手機のファクシミリ番号を予め登録しておくことにより、ワンタッチダイヤルで回線の接続を行って送信時の操作を簡略化している。

【0021】上記のポートとモードの自動選択は、以下のルールに基づいて行われている。

【0022】(a) オペレータは、ポートとモードの選択指定は行わず、内線/外線と専用線の選択指定のみを行い、専用線を選択指定した場合は、ワンタッチダイヤルで発呼を行う。

【0023】(b) 選択指定された内線/外線のポートグループにISDN I/fが含まれる場合には、当該ISDN I/fを具備するポートを優先的に選択し、まずG4モードでの通信を行う。

【0024】(c) G4モードでの通信の結果、相手

機がG3ファクシミリ装置と判断されると、ISDN I/fポートで、G3モードにフォールバックして再通信を行う。この場合、PSTN I/fポートを使用しないのは、ISDN I/fに比較して加入者線でのロスが多く、回線品質が低下するからである。

【0025】(d) 着信専用ポートとして登録された通信ポートからの発呼は禁止する。このようなルールに基づいた図6のような送信処理を記述しプログラムをROM8に予め記憶しておき、装置設置時に、図5に示したような回線接続形態に応じた項目内容を回線登録テーブルTに設定登録することにより、中央制御部6は、回線登録テーブルTを参照して上記のルールに基づいたファクシミリ通信を行う。

【0026】次に、図7～図9を参照して4ポートタイプの場合について説明する。例えば、図7に示したように、I1、P1、I2、P2の4つのポートを有するファクシミリ装置において、I1ポートを外線のISDN網に、P1ポートを内線のアナログPBXに、I2ポートを着信専用用いる外線のI1/f高速デジタル専用線に、P2ポートを外線のPSTN網に接続したものとする。

【0027】この接続形態においては、回線登録テーブルTには、図8に示したような項目内容を設定登録する。すなわち、ボード種別としては、通信制御部10が搭載されたボードについては、(1)「ISDN I/f×1、PSTN I/f×1」を設定登録し、通信制御部13が搭載されたボードについても同様に、(2)「ISDN I/f×1、PSTN I/f×1」を設定登録する。また、ポート種別については、内外線種別としては、I1ポートについて「外線」、P1ポートについて「内線」、I2ポートについて「専用線」、P2ポートについて「外線」を夫々設定登録し、運用種別としては、I1、P1、I2ポート共に「通常」を、P2ポートについて「着信専用」を設定登録する。そして、回線種別としては、I1ポートについて「ISDN」、P1ポートについて「アナログPBX」、I2ポートについて「I1/f高速デジタル専用線」、P2ポートについて「PSTN」を設定登録する。

【0028】4ポートタイプのファクシミリ装置における送信処理(通信ポート、通信モードの選択)は、図9に示したように行われる。なお、図9の通信処理は、4ポートの場合における全ての回線接続形態に対応しており、2重線で囲んだ部分が図7の接続形態に対応している。

【0029】すなわち、図7の回線接続形態で装置が設置され、かつ回線登録テーブルTには図8に示したような内容が設定登録された状態で、オペレータが図2の呼選択部71のタッチ操作により外線を選択すると、図9の2重線に示したように、I1ポートを介してG4モード[I1(G4)]での発呼が行われる。このG4モー

ド〔11 (G4)〕での通信の結果、相手側がG3ファクシミリであることが判明すると、G3モードにフォールバックし、11ポートを介して再発呼を行う〔→11 (G3)〕。一方、オペレータが内線を選択した場合には、P1ポートを介してG3モード〔P1 (G3)〕での発呼が行われる。

【0030】このように、4ポートの場合における通信ポートと通信モードの自動選択のルールは、2ポートの場合と同一であり、一般にNポートの場合も同一である。ただし、備考欄に示したように、外線に接続されたポートが複数存在する場合に外線が選択され、その選択に基づいて最初のG4モードでの通信を行った結果、相手側がG3ファクシミリであったので、G3モードにフォールバックして再発呼を行おうとするとき、その再発呼の時点で最初のG4モードでの発呼を行ったポートが使用中であれば、外線に接続された他のポートを介して再発呼を行うという、ルールが新たに追加されている。

【0031】以上説明したように、呼選択部71のタッチ操作により、単に内線／外線、或いは専用線を選択するだけで、自動的に通信ポート、通信モードの選択が行われるので、ファクシミリ通信についての知識のないオペレータでも、簡単にファクシミリ通信を行えるようになる。

#### 【0032】

【発明の効果】本発明によれば、複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、前記複数の通信ポートの種別情報として、少なくとも各通信ポートに夫々接続されている回線が内線、外線のいずれであるかを登録する登録手段と、少なくとも内線、外線のいずれの回線を介して発呼するかを呼毎に指定する指定手段と、少なくとも前記指定手段により内線、外線のいずれかが指定された際、少なくとも前記指定手段により指定された内線、または外線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択して発呼する通信制御手段とを設け、単に内線／外線、或いは専用線を選択するだけで自動的に

通信ポート等の選択が行われるようにしたので、ファクシミリ通信についての知識のないオペレータでも、簡単な操作でファクシミリ通信を行うことが可能となる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例によるファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【図2】操作部の構成を示す正面図である。

【図3】回線登録テーブルに対する設定登録項目を示す図である。

【図4】2ポートタイプのファクシミリ装置における回線接続例を示す図である。

【図5】図4の回線接続例に対応する回線登録テーブルの設定登録内容を示す図である。

【図6】2ポートタイプのファクシミリ装置における送信処理を示す図である。

【図7】4ポートタイプのファクシミリ装置における回線接続例を示す図である。

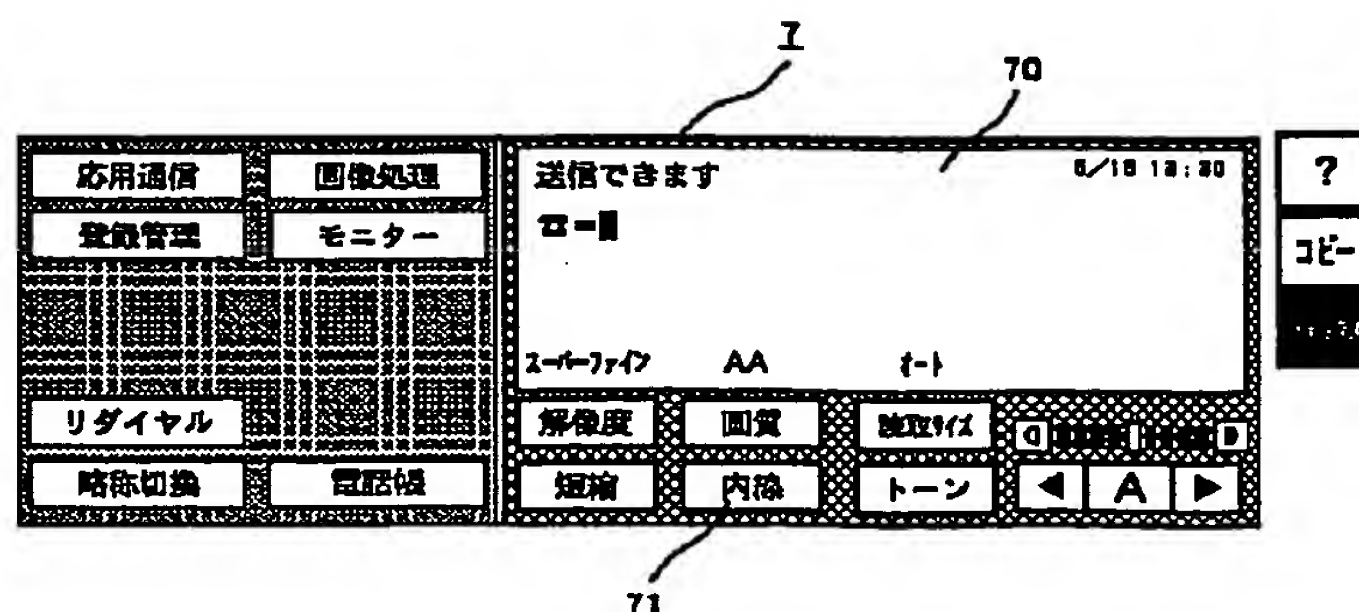
【図8】図7の回線接続例に対応する回線登録テーブルの設定登録内容を示す図である。

【図9】4ポートタイプのファクシミリ装置における送信処理を示す図である。

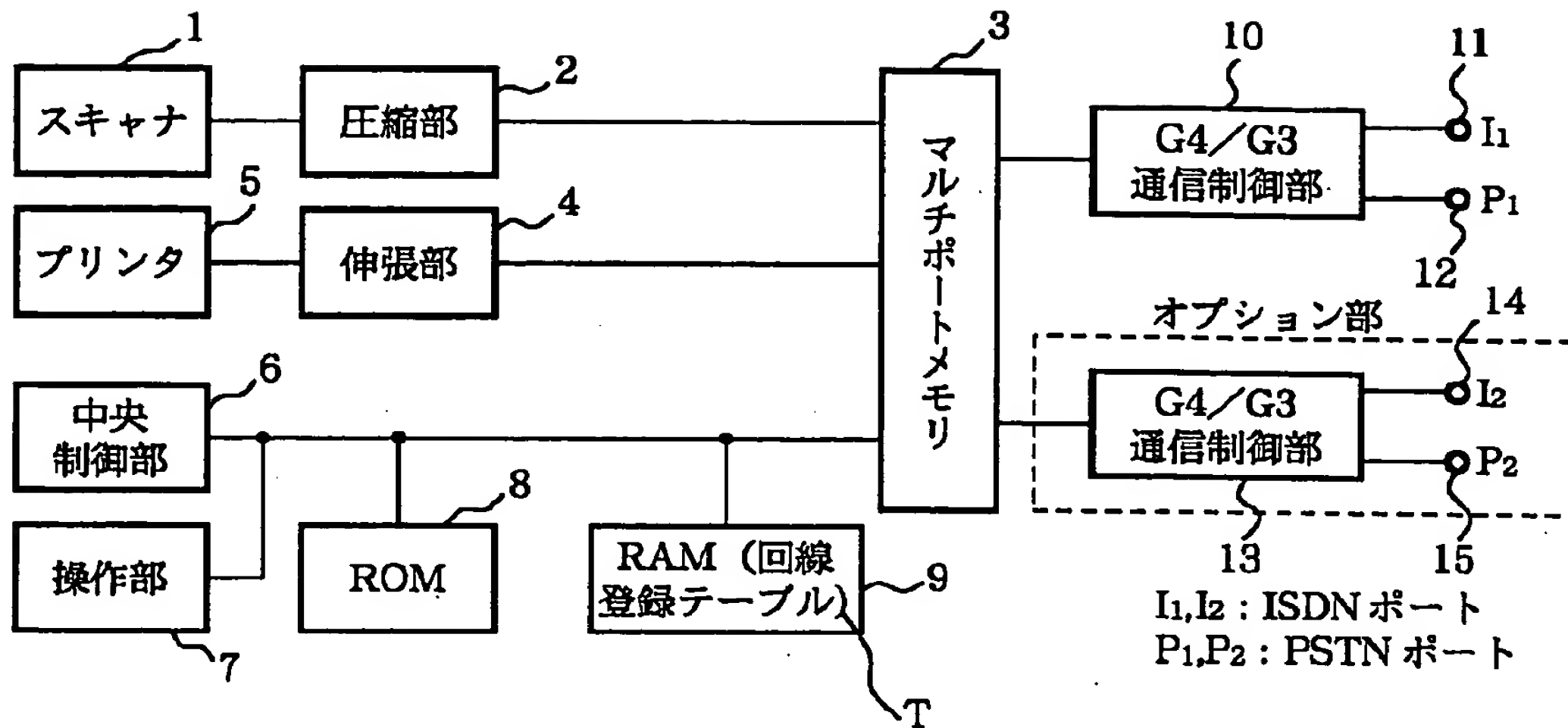
#### 【符号の説明】

- 1 スキャナ
- 2 圧縮部
- 3 マルチポートメモリ
- 4 伸張部
- 5 プリンタ
- 6 中央制御部
- 7 操作部
- 8 ROM
- 9 RAM
- 10、13 通信制御部
- 71 呼選択部
- T 回線登録テーブル

【図2】



【図1】

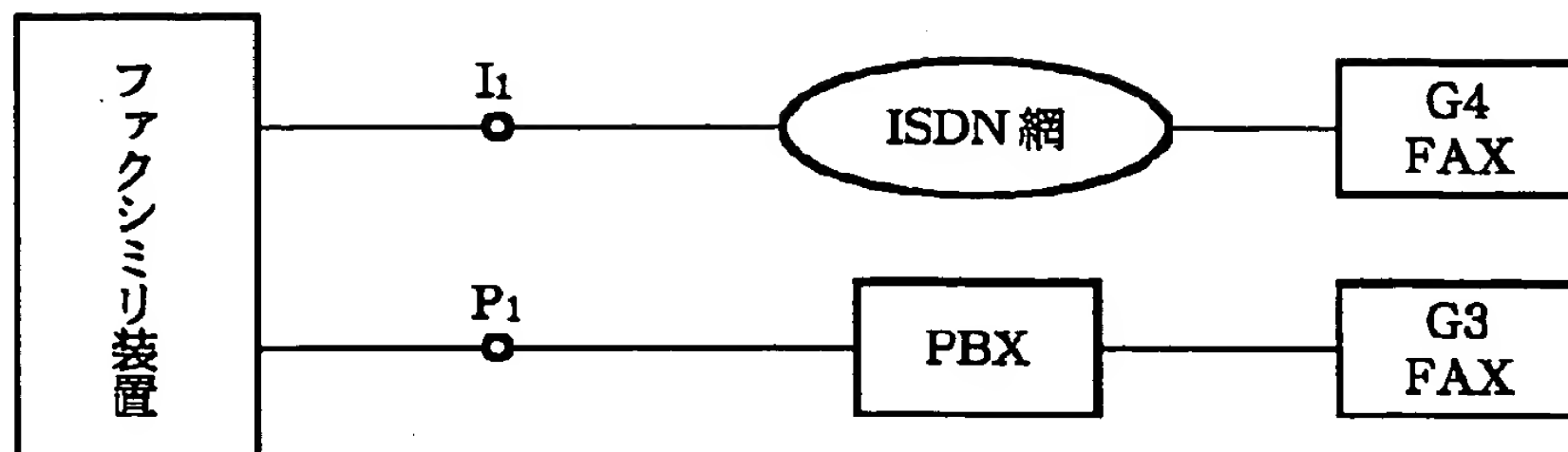


【図3】

ボード種別 (各ボード単位)	①なし ② ISDN <sub>i</sub> /f × 1, PSTN <sub>i</sub> /f × 1 ③ Xi/f × 1, PSTN <sub>i</sub> /f × 1	
ポート種別 (各ポート単位)	内外線種別	①未接続 ②外線 ③内線 ④専用線
	運用種別	①通常 ②着信専用 ③送信専用
	回線種別	① ISDN ② PSTN ③ Xi/f ④ PBX ⑤ I <sub>i</sub> /f 専用線



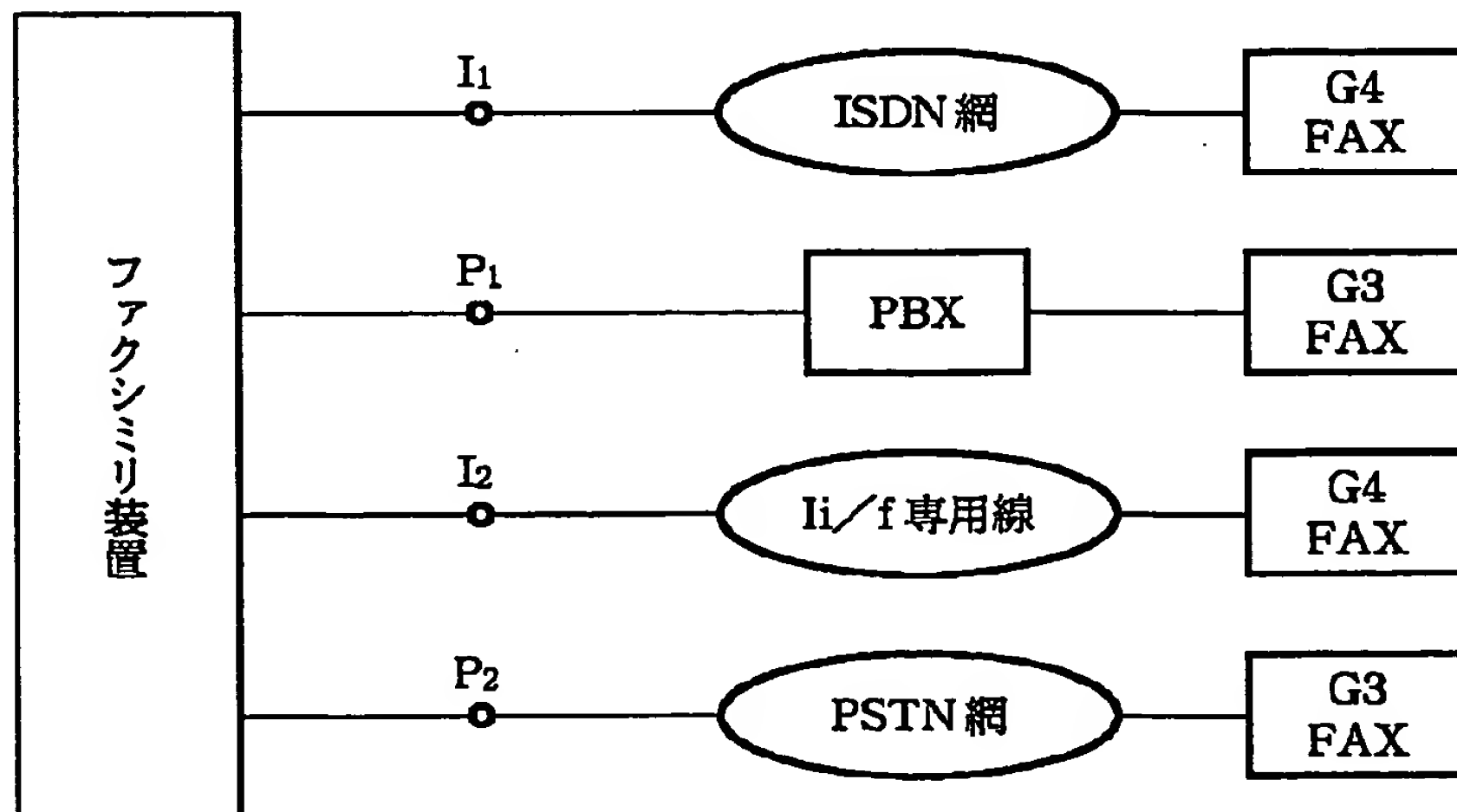
【図4】



【図5】

ボード種別	① ISDNi/f × 1, PSTNi/f × 1 ② なし		
ポート種別	内外線種別	I <sub>1</sub>	外線
		P <sub>1</sub>	内線
	運用種別	I <sub>1</sub>	通常
		P <sub>1</sub>	通常
	回線種別	I <sub>1</sub>	ISDN
		P <sub>1</sub>	PBX

【図7】



【図6】

接続形態	外線指定	内線指定	専用線
I <sub>1</sub> 外,P <sub>1</sub> 外	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	—————	—————
I <sub>1</sub> 外,P <sub>1</sub> 内	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	P <sub>1</sub> (G3)	—————
I <sub>1</sub> 内,P <sub>1</sub> 外	P <sub>1</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	—————
I <sub>1</sub> 内,P <sub>1</sub> 内	—————	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	—————
I <sub>1</sub> 専,P <sub>1</sub> 外	P <sub>1</sub> (G3)	—————	I <sub>1</sub> (G4) (ワタツチダイヤル)
I <sub>1</sub> 専,P <sub>1</sub> 内	—————	—————	I <sub>1</sub> (G4) (ワタツチダイヤル)

【図8】

ポート種別 (各ポート単位)	①ISDNi/f×1,PSTNi/f×1 ②ISDNi/f×1,PSTNi/f×1		
ポート種別 (各ポート単位)	内外線種別	I <sub>1</sub>	外線
		P <sub>1</sub>	内線
		I <sub>2</sub>	専用線
		P <sub>2</sub>	外線
	運用種別	I <sub>1</sub>	通常
		P <sub>1</sub>	通常
		I <sub>2</sub>	通常
		P <sub>2</sub>	着信専用
	回線種別	I <sub>1</sub>	ISDN
		P <sub>1</sub>	PBX
		I <sub>2</sub>	Ii/f専用線
		P <sub>2</sub>	PSTN

【図9】

接続形態				外線指定	内線指定	備考
I <sub>1</sub> 外	P <sub>1</sub> 外	L <sub>2</sub> 外	P <sub>2</sub> 外	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3) → L <sub>2</sub> (G3)	—————	I <sub>1</sub> (G3) 使用中時 は L <sub>2</sub> (G3) を使用
				L <sub>2</sub> (G4) → L <sub>2</sub> (G3) → I <sub>1</sub> (G3)		L <sub>2</sub> (G3) 使用中時 は I <sub>1</sub> (G3) を使用
	P <sub>1</sub> 内	L <sub>2</sub> 外	P <sub>2</sub> 外	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3) → P <sub>2</sub> (G3)	P <sub>1</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G3) 使用中時 は L <sub>2</sub> (G3) を使用
				L <sub>2</sub> (G4) → L <sub>2</sub> (G3) → I <sub>1</sub> (G3)		L <sub>2</sub> (G3) 使用中時 は I <sub>1</sub> (G3) を使用
		L <sub>2</sub> 専	P <sub>2</sub> 外	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3) → P <sub>2</sub> (G3)	P <sub>1</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G3) 使用中時 は P <sub>2</sub> (G3) を使用
I <sub>1</sub> 内	P <sub>1</sub> 外	L <sub>2</sub> 外	P <sub>2</sub> 外	L <sub>2</sub> (G4) → L <sub>2</sub> (G3) → P <sub>1</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	L <sub>2</sub> (G3) 使用中時 は P <sub>1</sub> (G3) を使用
		L <sub>2</sub> 専	P <sub>2</sub> 外	P <sub>1</sub> (G3) P <sub>2</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	P <sub>1</sub> (G3) 使用中時 は P <sub>2</sub> (G3) を使用
I <sub>1</sub> 内	P <sub>1</sub> 内	L <sub>2</sub> 外	P <sub>2</sub> 外	L <sub>2</sub> (G4) → L <sub>2</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	
		L <sub>2</sub> 専	P <sub>2</sub> 外	P <sub>2</sub> (G3)	I <sub>1</sub> (G4) → I <sub>1</sub> (G3)	

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成11年(1999)12月14日

【公開番号】特開平6-178011

【公開日】平成6年(1994)6月24日

【年通号数】公開特許公報6-1781

【出願番号】特願平4-349801

【国際特許分類第6版】

H04M 11/00 303

H04L 25/02

H04N 1/00 104

【F I】

H04M 11/00 303

H04L 25/02 J

H04N 1/00 104 B

【手続補正書】

【提出日】平成10年6月26日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、

内線を介する発呼を指定する指定手段と、

前記指定手段により内線を介する発呼が指定された場合に選択すべき通信ポートを登録する登録手段と、

前記指定手段により内線を介する発呼が指定されると、内線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択する選択手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 前記登録手段は、前記指定手段により外線を介する発呼が指定された場合に選択すべき通信ポートを登録することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項3】 前記登録手段は、さらに、ISDN網に接続された通信ポートを登録し、ISDN網への発呼は、G4モードで行われることを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項4】 G4モードでの発呼により相手がG3ファクシミリ装置であることが判明したときはG3モードにフォールバックすることを特徴とする請求項3記載のファクシミリ装置。

【請求項5】 ISDN網に接続された通信ポートは、優先的に選択されることを特徴とする請求項3記載のファクシミリ装置。

【請求項6】 前記登録手段は、さらに、着信専用の通

信ポートを登録し、前記選択手段は、着信専用の通信ポートを発信時に選択しないことを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項7】 前記登録手段は、前記指定手段により専用回線を介する発呼が指定された場合に選択すべき通信ポートを登録することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項8】 前記専用回線への発呼は、自動ダイヤルにより行なわれることを特徴とする請求項7記載のファクシミリ装置。

【請求項9】 前記指定手段は、タッチ操作により切替え表示を行なうタッチパネルにより構成されることを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項10】 複数の通信ポートを有する通信装置において、

内線を介する発呼又はそれ以外の発呼を指定する指定手段と、

内線を介する発呼又はそれ以外の発呼に対応する通信ポートを登録する登録手段と、

前記指定手段により内線を介する発呼又はそれ以外の発呼が指定されると、前記登録手段に基づいて、指定された発呼に対応する通信ポートを介して発呼する発呼手段とを備え、

前記登録手段は、前記発呼手段により所定の通信ポートを介して発呼される場合には、所定の通信モードで発呼される様に、登録することを特徴とする通信装置。

【請求項11】 前記所定の通信モードでの発呼は、G4モードでの発呼であることを特徴とする請求項10記載の通信装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を解決するため、本発明は、複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、内線を介する発呼を指定する指定手段と、前記指定手段により内線を介する発呼が指定された場合に選択すべき通信ポートを登録する登録手段と、前記指定手段により内線を介する発呼が指定されると、内線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択する選択手段とを備えている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【作用】今、IポートとPポートとを有するファクシミリ装置において、登録手段には、Iポートが外線に接続され、Pポートが内線に接続されていることが登録されているものとする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】この場合、指定手段により、内線を介する発呼が指定されると、選択手段は、登録手段に基づいて、指定された通信ポートであるPポートを選択する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正内容】

【0032】

【発明の効果】本発明によれば、複数の通信ポートを有するファクシミリ装置において、内線を介する発呼を指定する指定手段と、前記指定手段により内線を介する発呼が指定された場合に選択すべき通信ポートを登録する登録手段と、前記指定手段により内線を介する発呼が指定されると、内線に接続された通信ポートを前記登録手段に基づいて選択する選択手段とを設け、内線発呼が指定されれば、通信ポートの選択が行なわれるので、どの通信ポートが内線に接続されているか確認しなくても、正確に、内線の相手に発呼することが可能となる。また、複数の通信ポートを有する通信装置において、内線を介する発呼又はそれ以外の発呼が指定する指定手段と、内線を介する発呼又はそれ以外の発呼に対応する通信ポートを登録する登録手段と、前記指定手段により内線を介する発呼又はそれ以外の発呼が指定されると、前記登録手段に基づいて、指定された発呼に対応する通信ポートを介して発呼する発呼手段とを備え、前記登録手段は、前記発呼手段により所定の通信ポートを介して発呼される場合には、所定の通信モードで発呼される様に、登録することにより、どの通信ポートが内線に接続されているか確認しなくても、正確に、内線の相手に発呼することが可能となり、所定の通信ポートを介して発呼される場合に、確実に、適切な通信モードで発呼することが可能になる。